

第 5 回 金剛地区活性化に向けた意見交換会 まとめ

1. 開催概要

○日時：平成 29 年 3 月 12 日（日）午前 10 時～正午

○場所：金剛連絡所 2 階大ホール

○参加者：18 名

※傍聴者：1 名

○プログラム

- ① あいさつ
- ② これまでのおさらい
- ③ 金剛地区再生指針（案）について
- ④ 来年度のすすめ方について
- ⑤ その他

2. 当日の様子



3. 主な意見

（1）金剛地区再生指針（案）について

- ・金剛地区再生指針は、策定後、地域に広く公表できるようにしたほうがよい。

※パブリックコメントは、第5回金剛地区再生指針策定協議会で、再生指針への反映について協議する予定である。公表は3月末になる予定。

（2）来年度のすすめ方について

資料4の組織、活動内容の案をもとに議論した。

① 来年度の活動内容について

- ・資料4に示されたキックオフイベントは、どのようなイメージか。新たなイベントを企画・運営するには、相当な努力が必要である。まずは、盆踊りや運動会、くのスポなど、地域に

あるイベントをまちづくりイベントとして位置づけ、充実させてはどうか。

- キックオフイベントは、再生指針を地域全員に説明するフォーラムとし、具体的なプロジェクトを紹介することができればよいのではないかと。できるだけ、さまざまな人に参加いただけるようなイベントもあわせて行ってはどうか。
- まずは、人材の育成から始めるべきではないかと。金剛地区には、町会・自治会等をはじめ、さまざまな団体、人材がいるので、この方たちに意見を聞きながら、取り組みの方向性を見定めていってもよいのではないかと。また、すでに取り組んでいる活動等もあるので、その活動を充実させていってもよいのではないかと。
- 盆踊りは、夜がメインなので、家族連れが参加しやすい昼間のイベントを行ってはどうか。例えば、金剛中央公園で、石川河川敷で行われていた「富田林市民ふれあいまつり」のように、子どもやその親世代が来やすいようなイベントを行ってはどうか。
- イベントを行うにしても、資金が課題になるのではないかと。また金剛中央公園を使うにしても、予約を早めに押さえないといけない。
 - 既存のイベントと一緒に行えば、大きな費用がかからないのではないかと。
 - 今日初めて耳にしたイベントが多かった。地域にもイベントを知らない人が多いので、まず情報を共有すべきではないかと。
- 既存のイベントでも、子どもの参加を呼びかけても、なかなか来てもらえていない現状もある。
- 既存のイベントと連携するのもよいが、新たなプロジェクトを考え、具体的にイメージしてもらえるPRをすべきではないかと。例えば、金剛中央公園の使いやすさを向上させるための企画を打ち出すなどしてもよいのではないかと。そうすれば、住民の具体的なニーズも見えてくると思う。
- 小さな子どもが来ることで、その親世代も来てくれるので、小さなことでもよいから、若い世代を呼び込めることをつくりたい。
 - 狭山池の周りには、市内の小学校で育てたプランターが並べられていて、とても素敵だった。参考になるのではないだろうか。
 - 桜の植樹のためには、安藤忠雄氏の講演会を行って募金を集めたり、月1回子どもとの清掃活動をするなど、一つ一つの仕組みをつくっている。このようなソフト的な仕組みをつくっていらっしゃる。
- 今あるものを活かすという点で、ふれあい大通りの景色の魅力をPRするイベントも一つの案ではないかと。
- 大学と連携し、医学、教育、保育、福祉などの専門家による講習会などを開いてもよいのではないかと。反対に、我々も大学のイベントに参加するなどすれば、さまざまな絆づくりの一環にもなるのではないだろうか。
- 大学生を呼び込むには、UR賃貸住宅を活用すべきではないかと。UR都市機構や市、大学と

連携して、家賃の軽減、リフォームなどをしていくべきではないか。あわせて、地域でのボランティア活動をカリキュラムなどに組み込んでもらうなどしてはどうか。自治会としては、そのような連携方法ができないか、現在検討中である。

- 大学生とのワークショップでは、異なる視点から意見をもらっており、今後もぜひそのような視点を大切にしたい。

②「(仮称) 金剛まちづくり会議」の体制について

- 若い世代にも参加してもらったほうがよいのではないかと。例えば、学校の先生やPTA、児童会、保育園・幼稚園の先生などにも入ってもらうチームがあってもよいのではないかと。
→若い世代にも、住みよいまちにしたいという思いを持った方もいる。地域団体というと、役職を押し付けられるのではないかと、土日の休みが潰れるのではないかとという印象を持ってしまいがちだが、何かきっかけがあれば参加する人もいると思う。若い世代に集まってもらうための魅力づくりという点では、どのような内容がよいか悩む部分ではある。
- PTAなどに再生指針を説明した上で、参加してもらえそうか議論してはどうか。まずは、指針を知ってもらうということが大切である。冊子等の配布だけでは、だれも読まない。
- 学校などでの行事などがあるので、そこにメンバーや市職員が出向いてPRしてはどうか。例えば、クラブ活動の試合などがあれば、応援しにいてもよいのではないかと。
- 若い人に限らず、高齢世代などに対してもPRが必要である。
- 町会・自治会等の総会などで、意見交換会の取り組みを説明しても、そこから他の人に話が広がっていないように思う。具体的なプロジェクトをつくりあげた上で、PRしたほうが興味を持ってもらえるのではないかと。子どもも参加するプログラム、学校と連携して公園の整備計画をつくるなどのしくみを作ったほうがよいのではないかと。このような具体的なプログラムまで見せることが必要ではないかと。
- イベントの企画・運営チームや、地域内の情報共有・発信チームなど、分化させていってはどうか。また、今後、取り組みを進めるにしても、先進地のしくみを学ぶなどが必要ではないかと。
- まずはメンバー同士が、月1回など定期的に集まって、本音で語り合うような場が大切だと思う。このようなミーティング形式では、本音も出にくい。例えば、懇親会でもよいし、どこかにハイキングに行くのでもよい。そうすれば、互いの特技なども知ることができる。組織を広げるよりは、互いの仲を深めてはどうか。
→まずは、みんなで花見してはどうか。
- 高辺台小学校区では、地域の方にも参加できる運動会(6月)や、味噌汁づくり・提供(2月)をしている。このような既存の活動も、メンバーのふれあいの場になると思う。
- メンバー数は、あまり多くなならないほうがよいのではないかと。限度としては、30人くらいではないだろうか。ただし、具体的な動きが出てくれば、プロジェクトチームをつくり、そこに広く参加してもらうようにしてはどうか。
- 来年度以降の組織「(仮称) 金剛まちづくり会議」は、現意見交換会メンバーが引き継ぐこ

とでよいのか。現メンバーは、町会・自治会等を通して集まったという経緯があるので、町会・自治会等への報告・了承が必要ではないか。

→現メンバー以外でも、町会・自治会等から参加したい方がいれば参加してもらってはどうか。

→指針策定、及び意見交換会の活動の経過等については、市から町会・自治会等に、今年度中に報告する。(市)

→現意見交換会メンバーには、「(仮称)金剛まちづくり会議」に引き継ぎ参加していただきたいと考えている。また、参加者の交代や新たな参加については、町会・自治会等への説明も含め、あらためて市で調整する。(市)

4. その他

- 平成27年の夏のグループヒアリングから始まり、この意見交換会をあわせ、約1年半にわたってご協力いただき、ありがとうございました。再生指針策定後も、みなさんと一緒に地区活性化に向けて取り組んでいきたいと考えています。引き続き、ご協力のほどよろしくお願い致します。(市)

以上